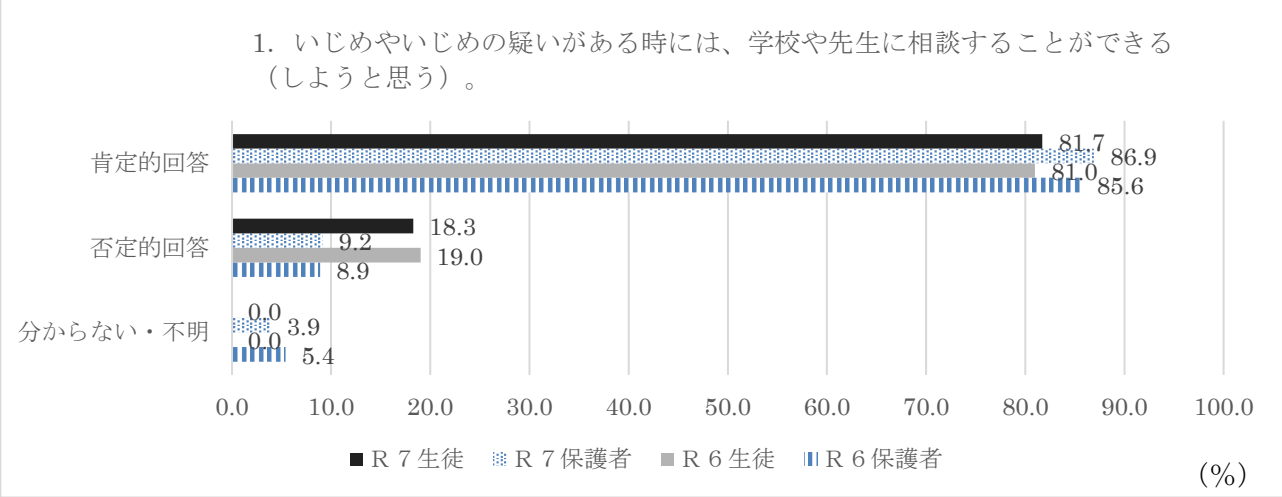
学校だより 第１１号

令和８年３月６日
新宿区立新宿西戸山中学校
校長　賀屋　寛
副校長　渡部　裕也

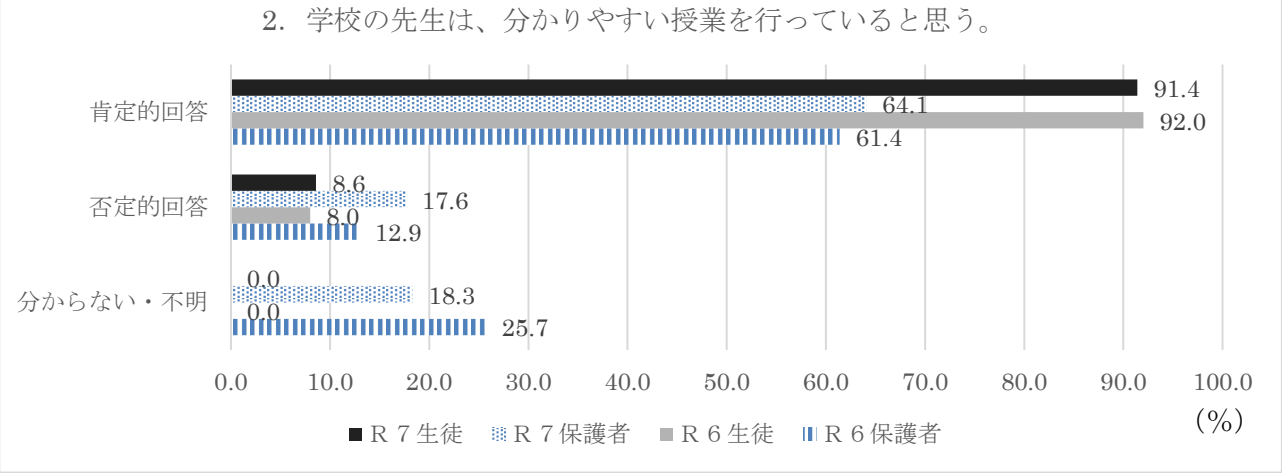
生徒・保護者アンケート結果報告

副校長　渡部　裕也

保護者・地域の皆様におかれましては、１年間本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき大変感謝しております。学校として、新年度に向けて令和７年度を振り返り、令和８年度の新たなスタートに向けて、しっかりと課題に向き合い教育活動を進めてまいります。新年度には保護者会にて校長から学校経営方針として、今回の結果を踏まえた教育課程を説明させていただく予定です。今回の学校だよりでは、先日実施した保護者アンケートの結果をお知らせするとともに、結果を踏まえた学校としての考えをお伝えさせていただきます。

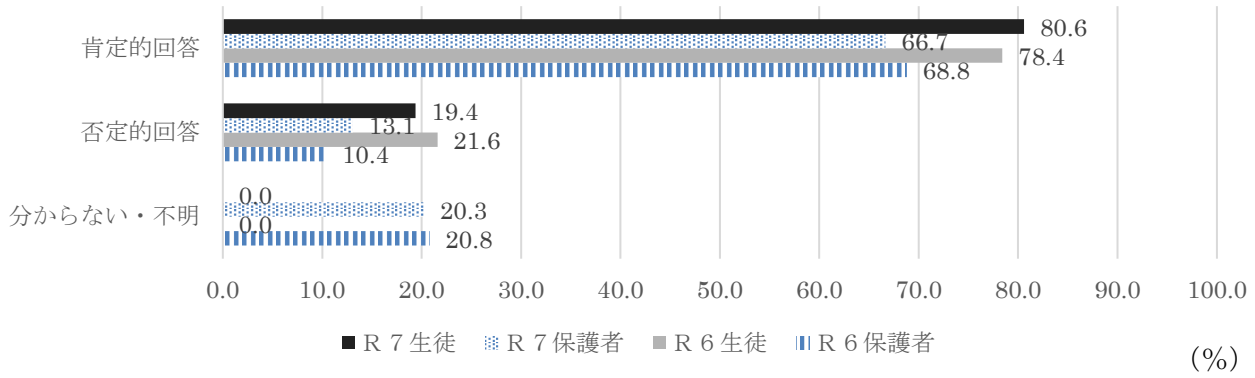


相談者が最も相談しやすい人や機関に相談すること（できること）が大切であると捉えています。保護者より生徒の肯定的回答が低いことは、生徒がまず保護者や友人に相談するという数も一定程度いるものと思われます。一方で、相談しない（できない）という生徒もいるということも念頭においておく必要があると認識しています。学校といたしましては、教員だけではなくスクールカウンセラーとも連携して引き続き相談体制を整えるとともに、ふれあい月間におけるアンケートを活用していきます。



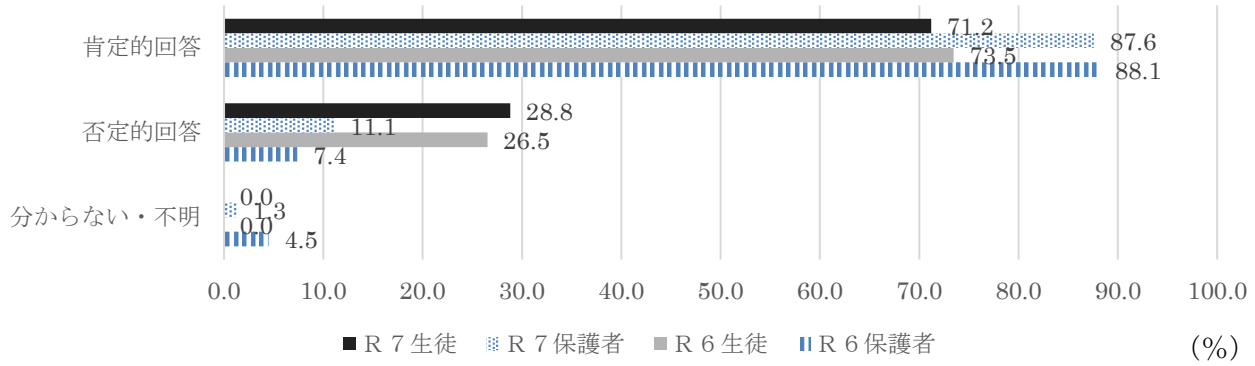
生徒は９０％以上が肯定的な回答をしており、概ね良好な結果と捉えています。ICT 機器の効果的な活用、学力調査をいかした学力向上プランの作成などを通して、主体的・対話的で深い学びの実装に向けた授業改善を引き続き進めてまいります。

3. タブレット端末などを使って、「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業をよく行っていると思う。



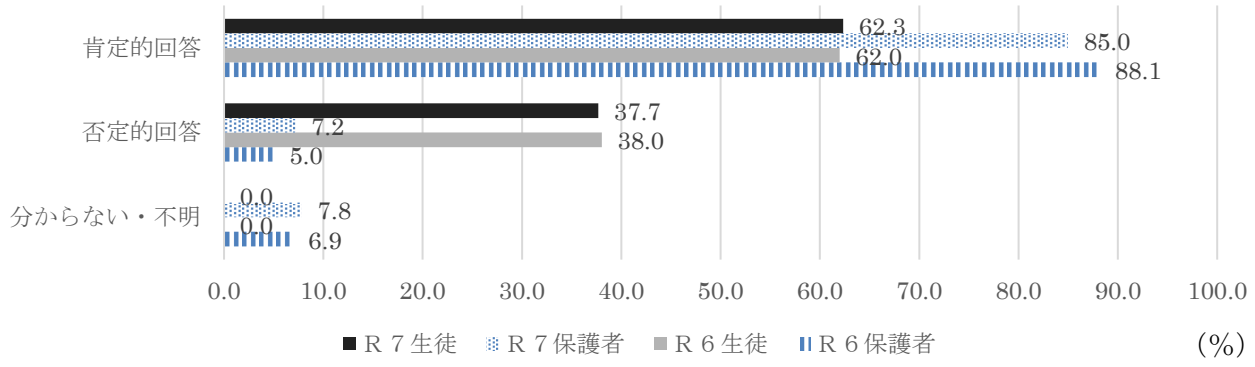
生徒の肯定的回答は、前年度より微増し８０％を超えました。タブレット端末の活用は、多く行えばよいということではなく、学習内容に合わせて効果的に活用していくことが望ましいと考えております。意見の集約や協働学習など学習場面に応じ、協働学習支援ツールを活用した授業が昨年度よりも増えています。今後も、学習の定着や学びの深まりを意識してタブレット端末を活用していきます。

4. 学校は、日頃の教育活動の様子などについて、保護者会や学校だより等で分かりやすく伝えていると思う。（生徒：学校のことを家でよく話している。）



令和７年度は、学校だよりだけではなく、学年だより等も「すぐーる」で配信するなどし、令和６年度よりも保護者に直接的に学校の様子が伝わるよう努めてきました。情報発信の量的改善だけではなく、質的にも改善を図り、より分かりやすく学校での様子が保護者に伝わるようにしていきます。また、生徒が家庭で学校の様子を語りたくなるような教育活動が実施できるよう、引き続き改善を図ってまいります。

5. 学校は、子どもが学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会をよくつくっていると思う。



地域行事でのボランティア、新宿西戸山ソーラン、放課後自習教室、１年生「染め物体験」、２年生「職場体験」、３年生「面接練習」など様々な活動を行っています。生徒には、地域の人と一緒に活動しているという実感がもてるよう引き続き地域連携を図っていきます。８０％以上の保護者には地域連携について伝わっていることが分かりました。今後も情報発信を丁寧に行っていきます。